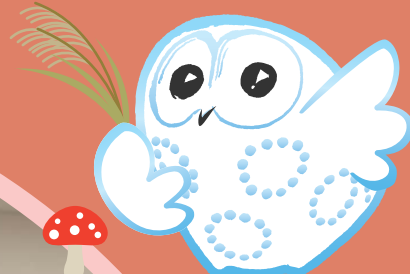


# gakuto

\*学塔\*



2013.Autumn

No.131



自著を語る

「音楽における永遠をめざして」

ここから広げよう

各学部の先生からのオススメ本

From Students

ラーニング・コモンズの秘密

ブックロウのPick Upコーナー!!

三重の藩校と漢籍  
三重大学附属図書館の歌書  
オープンライブラリを開催しました

News!

秋の文献検索講習会

特集

図書館で見つける  
神宮式年遷宮





## 音楽と医療2つの接点になり得た「パトグラフィー（病跡学）」

なぜ「パトグラフィー（病跡学）」の研究をするようになったのですか。

過去の大芸術家や天才について、精神医学的な立場から、その人の生き方や作品を研究するという学問が病跡学なのですが、その生き方の中でどうしてその作品が永遠の輝きを持つようになったかという事を、精神医学的な視点を含めて研究するのは結構面白いなと思って始めました。私自身、最初から音楽活動はやっていて、精神科の診療もしていましたので、2つの接点になる学問なのですね、病跡学というのは。それで年に一本くらい論文を書くようになりました。それをまとめたのが、この本ともう1つ以前に出版した本（『危機的状況における大音楽家』大学教育出版 2002）です。

## 一瞬の感動が永遠に感じられる瞬間を追求したい

## マーラーは超越性、永遠性を体験させてくれる音楽家

では、一番好きな音楽家は誰ですか。

演奏するのと聴くのとでは全く違いますね。聴くのであればモーツァルトですが、演奏するとき一番得意としているのはマーラーでしょうね。タイトルではないですが、マーラーの曲の演奏においては超越性、永遠性を演奏者全員で一番共有しやすく、マーラーはそれらを体験させてくれる作曲家ですね。その価値はかけがえがない。仮にいくら曲が長くて、演奏者がたくさん必要で、それまでの過程が大変であつても、それに見合う以上のものをマーラーは与えてくれます。

## 医学と音楽を絶対に両立する

先生はどのような学生時代を過ごされたのですか。

最初から本当は音楽の方向に行きたかったのですが、私の家は父も祖父も開業医をしていまして、高校3年のとき相談しましたらすべての人に反対されてしまいました。でも医学部へ行った後、自分の生き方がおかしいような感じがしてきて、結局好きな音楽をまっしぐらと決心しました。芸大時代はまだ試行錯誤で、何を自分がしているのかと探している時代でしたけれど、芸大に期待した程の魅力が十分にあったとは言い難くて、途中から両方しようということに変わってきました。三重大にきてからは、三重大学管弦楽団に入って、学生指揮を担当していたので、それを将来の活動に生かしたいとも思いました。将来は医学と音楽を絶対に両立するんだという事を学生時代から考えていましたね。

音楽に関しては、若い時からモーツァルトを聴くのが好きでした。ただ、若い時は今のように多様に聴くわけじゃなくて、たとえば、シューマンであつた

## 大谷正人 先生

教育学部 特別支援教育 教授

## 『音楽における永遠をめざして：音楽のパトグラフィー 2』

〈大学教育出版 2013.3〉

〔所在〕図・開架・図書

〔請求記号〕762/O84/2

前作『危機的状況における大音楽家』から10年の年月を経て刊行。



「タイトルにもありますが「音楽」は「永遠」なんでしょうか。

音楽はその曲自体が名曲だと楽譜として永遠に残る曲はいっぱいありますけれど、楽譜と音楽とは別です。音楽は一瞬に生まれて、一瞬に消えていくものなのです。その一瞬の感動が永遠に残るという事はありません。永遠に続くような感動を創り続けたいというのが、指揮者としての原点なのです。人間は必ず死にますが、逆に言うとう人間は必ず死ぬからこそ、生きた瞬間が永遠になりうる。もし人間の寿命が無限であれば、永遠というのはあり得ないと思うのです。この本にもマーラーの八番に関する論文が載っていますが、かつてマーラーの交響曲第八番を演奏した時、演奏時間は80分その時の演奏者は500人弱でした。たった80分のためだけに、それだけの人数とすごいお金と時間を費やしました。でもその瞬間が演奏者にとって聴衆にとって永遠に感じられる瞬間であれば、何ももったいなくはないのです。そういう体験を追求したいというのが、原点でもあります。

り、マーラーであつたり、晩年のベートーヴェンであつたり、いろんな特定の作曲家にのめり込んでしまう時期もありましたね。

高校生の頃に一番好きだった音楽で、クラシック以外では、「ウエストサイドストーリー」とか。あのミュージカルは今でも大好きです。中学生の頃に観た「サウンド・オブ・ミュージック」も今でも好きです。あのような世界はクラシックにかなり近いですね。数年前に1回観た「レ・ミゼラブル」も結構面白かったし。

## 学生時代に生きていくうえでの土台作りをしてほしい

三重大生へメッセージをお願いします

学生時代というのは、自分の将来のためになる活動、学問にしても、芸術にしても、違う世界でもそうですけど、自分が生きていくうえでの、礎を一番作りやすい時期ですよ。ですから、そういった勉強とかクラブ活動とか、いろんなものを通じて、将来本当にいきいきと生きていけるような土台を、ぜひ学生の時に見つけて、それを学生時代が終わってからも発展させていけると、その人の人生は豊かになると思います。そういった事を一番に希望したいですね。

## 【大谷正人先生プロフィール】

三重県立伊勢高等学校卒業後、慶應義塾大学医学部へ入学するが音楽家をめざし中退。東京芸術大学音楽学部楽理科を卒業後、三重大学医学部を卒業。三重大学医学部附属病院精神神経科へ入局。Max Planck精神医学研究所（ドイツ）への留学経験を経た後、三重大学教育学部助教授、後に教授となり現在に至る。現在、教育学部で授業を担当するとともに、医学部附属病院や他の病院で精神疾患の診療に携わる傍ら三重大学医学部卒業と同時に仲間と創設した「伊勢管弦楽団（アマチュア・オーケストラ）」の常任指揮者兼音楽監督を長年務める。

# ここから広げよう!!各学部の先生からの オススメ本 READING LIST

## 共通教育 太城康良先生

養老孟司 著  
『死の壁』

新潮社  
〔所在〕図・開架・図書  
〔請求記号〕114.2/Y 84

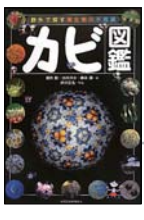


誰もが必ず通る道でありながら目をそむけてしまう死の問題について、安楽死、脳死からなぜ人を殺してはいけないか、なぜ戒名か、戦争、死体の人権についてなど様々なテーマを平易な言葉で論じている。著者の専門は解剖学であるが歴史、文学、社会学などの幅広い分野の視点を交えた著者の考え方を参考に、自分の死生観を問いつつ契機として、理系文系を問わず本書を推薦する。

## 生物資源学部 高松進先生

細矢剛、出川洋介、  
勝本謙 著  
『カビ図鑑：野外で探す微生物の不思議』

全国農村教育協会  
〔所在〕図・開架・図書  
〔請求記号〕474.7/H 95



汚くて怖いというイメージがある「カビ」っていったいどんな生物なのだろう。同じ菌類であるキノコの本はたくさん出ているが、カビを紹介した本はこれまでなかった。本書は数多くの写真によってカビの美しく楽しいミクロな世界をわかりやすく紹介している。これまでカビには無関心だった君もこの本を読むことによってカビの不思議な世界にどっぷりはまること請け合いです。

## 工学部 伊藤敬人先生

井本稔 著  
『ナイロンの発見』

東京化学同人  
〔所在〕図・開架・図書  
〔請求記号〕579.3/I 48



私たちの身の回りにある高分子化合物の一つ「ナイロン」がどのように発見されたのかを、井本稔先生が発見者カローザスになりきり、どのように考え、苦悩して発見に至ったのか、また「ナイロン発見者」として名声を得てからの研究者としての更なる苦悩の心境が日記風に書かれた本である。新しい材料を見出す苦悩が書かれており将来研究開発を目指す理系学生諸君に一度は読んでほしい一冊である。

## 医学部 中野正孝先生

西内啓 著  
『統計学が最強の学問である』

ダイヤモンド社  
〔所在〕図・開架・図書  
〔請求記号〕350.1/N 86



統計学が得意という人はそう多くはないだろう。統計学の有用性を知ってもらうために、医療系だけでなく、他の分野の学生にも読んでもらいたい本の1つである。統計学の未履修者には少し難しいところもあるかもしれないが、将来を担う学生諸君が「統計リテラシー」を身につけるきっかけとしてもらい、決して拝金主義や実利主義に陥ることなく、社会に貢献していただくことを期待したい。

## 教育学部 牧原義一先生

リチャード・P.ファインマン 著  
大貫昌子 訳  
『ご冗談でしょう、ファインマンさん』  
ノーベル賞物理学者の自伝

岩波書店  
〔所在〕図・開架・図書  
〔請求記号〕289.3/F 23/1-2



科学の理論を理解することは難しいかもしれないが、著名な科学者の生立ちやエピソードを知ることには楽しい。本書は、個性的なノーベル賞物理学者ファインマン教授の自伝である。金庫破りの方法や、バーでの喧嘩と翌日の講義の話など、その体験談は映画を見るように躍動的でおもしろい。この本から、「物事の本質を見極める」というファインマンの新鮮で真摯な姿勢が伝わってくる。

## 人文学部 田中亜紀子先生

ハリエット・アン・ジェイコブズ 著  
・堀越ゆき 訳  
『ある奴隷少女に起こった出来事』

大和書房  
〔所在〕図・開架・図書  
〔請求記号〕289.3/J 12



本書は奴隷少女が、様々な苦勞を経て自由を手に入れるまでの記録である。雇い主から性的な欲望の対象となった少女が自らを守るために選んだ方法は衝撃的なものであり、また、その人生は奇蹟的なものではあった。それでもなお、この少女が読み書きの能力を有していたおかげで、私たちは150年前に実在したある少女の決してあきらめなかった人生や奴隷制度の問題を知ることができる。



# 図書館で見つける 神宮式年遷宮

## 神宮の心を知る・源流を探る

今年は、20年に一度という決められた年（式年）に神様がお住みになられているお宮をうつす（遷宮）お祭り「伊勢神宮式年遷宮」の年です。  
この附属図書館にも式年遷宮に関する資料がたくさんあります。  
20年に一度のこの機会に式年遷宮を知り、感じてみませんか。

### 1F 視聴覚コーナー ～神聖な気分を耳と目で感じる～

視聴覚コーナーにある申込書にDVDのケースに貼ってある番号(ここでは[ ]で表記)などを記入してカウンターに請求してください。



『伊勢神宮：生命(いのち)の森』(DVD)  
園田稔 監修 飯塚俊男 監督  
紀伊國屋書店 2006  
AV175.8/I 69 [1554]



『伊勢神宮：神々の住む神秘の美空間』(DVD)  
旅チャンネル/コロムビアミュージックエンタテインメント 2010  
AV175.9/I 69 [1845]



『伊勢神宮：受け継がれるところとかたち：式年遷宮元年の記録』(DVD)  
/NHKエンタープライズ 2006  
AV175.8/I 69 [1844]

### 附属図書館ホームページ

～記録を探す・知る～

<http://www.lib.mie-u.ac.jp/>  
附属図書館HPの「国内文献を探す」から利用することができます。

CiNii  
Articles  
(論文)

学内LAN  
MAGAZINE  
PLUS  
(雑誌記事)

学内LAN  
聞蔵Ⅱ  
(朝日新聞)

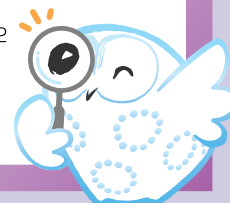
学内LAN  
中日新聞・  
東京新聞  
(地方紙選択可)

学内LAN  
日経  
テレコン21  
(日本経済新聞)

### 2F 参考図書

～新たな視点から探る～

『伊勢神宮研究文献目録：皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念』  
皇學館大学編  
皇學館大学 2012  
図・開架・参考図書  
175.8/I 69



### 2F 学生図書

～本の森で知識を深める～



『伊勢神宮めぐり歩き：一二五社をたずねる悠久の旅』  
矢野憲一 著 ポプラ社 2012  
図・開架・図書  
175.8/Y 58



『伊勢神宮』  
Kankan写真 JTBパブリッシング 2011  
図・開架・図書  
175.8/Ka 56



『伊勢神宮：常若の聖地』  
千種清美 著 ウェッジ 2012  
図・開架・図書  
175.8/C 44



『伊勢神宮の源流を探る：式年遷宮の謎を解く』  
江口測 著 河出書房新社 2012  
図・開架・図書  
175.3/E 33



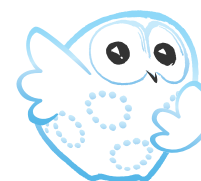
『知識ゼロからの伊勢神宮入門』  
茂木貞純 著 幻冬舎 2012  
図・開架・図書  
175.8/Mo 82



『伊勢神宮のこころ、式年遷宮の意味』  
小堀邦夫 著 淡交社 2011  
図・開架・図書  
175.8/Ko 27

### 書庫

～常しえの歴史に触れる～



書庫の図書の貸出・閲覧を希望する場合は  
平日9:00～16:50 館内OPAC端末横の申込書に記入の上、カウンターに請求してください。

書庫に直接入るための書庫ガイダンスも行っています。  
詳しくは参考カウンターまで。



『神宮：第六十二回神宮式年遷宮へ向けて』  
神宮司庁広報室編  
神宮司庁・神宮式年造宮庁 2006  
図・書庫  
175.8/J 52



『神宮遷宮記』第2版  
神宮司廳 編纂  
神宮式年造宮庁 1992  
図・書庫  
175.85/J52 / 1-4

# From Students

## 三重大学図書館

### ラーニング・commonsの秘密

新しい学びの可能性を生み出す共有空間として注目されている「ラーニング・commons」三重大学附属図書館では1階の大半をこのラーニング・commonsとして提供していますが、皆さんは活用していますか？  
今回はこのスペースの秘密を紹介したいと思います！

#### その1 様々な形のテーブル



パズルのように組み合わせ可能な台形テーブルは70台以上！  
他にもエリアにより色や形の違うテーブルをご用意。  
皆さんのニーズに合わせて選ぶことができます。

#### PCスペースとコンセント

PCスペースには約20台のPCがあり、誰かと作業をする時に便利な配置になっています。  
またコンセントタップも4口のものが4つあるので、自分のPCを使うこともできます！



#### その3 プロジェクター



セッティング済みの2台を誰でも使うことができます。  
パソコンの画面を壁に映すことができるので、発表の練習などにも最適！  
説明書もあります。

実は…

プロジェクター操作のPC貸し出しも行っています！  
(インターネット接続はできません)  
※貸出カウンターに請求してください。

#### ホワイトボード

縦長のホワイトボードを約10枚置いてあります。  
裏表両面に書くことができます。  
またキャスターがついているので、自分の使いやすい場所へ持っていったり複数枚並べて使うことも可能です！



※このページはインターンシップの一環で橋本さんが原案を作成しました。ありがとうございました。

#### 図書館からの質問

- ①簡単な自己紹介をお願いします。
- ②印象に残った仕事、おもしろかった仕事があれば教えてください。
- ③図書館の仕事を体験して、これまで持っていた図書館のイメージと違っていたところがあれば教えてください。
- ④感想をお願いします。

#### ①筑波大学 情報学群(知識情報・図書館学類)3年 橋本昌枝です。

図書館に関する分野はもちろん、知識の伝達や取得に関する学問など幅広く学んでいます。私はその中でも検索システムやプログラミングといったシステム系の分野を専攻としています。

#### ②機関リポジトリへの登録作業は本を裁断したり、メタデータを自分で付与したりと何かと緊張するシーンが多く印象に残っています。また、様々な仕事の中で図書館のシステムを使う場面があり、データを呼び出したり他の図書館とやりとりしたりということがほぼすべて1つのシステムでできるのがすごい、と思いました。

#### ③今までは、図書館で働く全ての人がカウンター業務から図書の受け入れまで色々な仕事を行うイメージでしたが、実際には思っていたよりかなり細かく仕事が分担されていて、それぞれ専門にしているものがあり驚きました。また、実際に業務をしてみると思っていたよりも体力が必要な仕事であることを実感しました。

#### ④11日間という限られた期間で、書庫整理から図書・雑誌受け入れ、カウンター業務などたくさんの業務を体験させていただいて、今まで知ることのできなかった大学図書館で働くことの魅力を知ることができました。本当にありがとうございました。







# ブックロウの Pick Up コーナー!!

図書館のホームページ  
<http://www.lib.mie-u.ac.jp/>  
から Check it out !!

## 三重の藩校と漢籍

4月10日(水)～5月8日(水)「三重大学附属図書館リニューアル記念 特別展示「藩校の漢籍」」が開催されました。三重大学附属図書館が所蔵する漢籍(漢文の書物)約300点のうち、三重県ゆかりの江戸時代の藩校(津藩有造館、紀州藩学習館・松坂学問所・紀伊蘭学所)の出版物・蔵書および幕府の学校(昌平坂学問所・開成所)の出版物、計9点を紹介いたしました。当時は漢学が学問の中心のため、藩校の出版・蔵書も漢籍が圧倒的多数でした。これらの本により、藩校の出版物が、全国に普及し諸藩の教育に大いに役立っていたことがわかります。

吉丸 雄哉(人文学部)



## 三重大学附属図書館の歌書

7月26日(金)～8月13日(火)にかけて、図書館入口にて「三重大学附属図書館の歌書」展が開催されました。これは春学期に開講された「日本の文学0」の講義の一環で、主に図書館が所蔵する江戸時代に刊行、書写された歌書14点に受講者が一人一点編者・著者、刊行書写年、表紙の色などといった書誌的事項を著録してキャプションとしたものです。一口に歌書といっても撰集・家集(個人の歌集)・歌論書・短冊など、種類、装訂など多岐にわたりました。また、開催初日には学生によるギャラリートークも行われました。

中川 豊(人文学部)



## オープンライブラリを開催しました

8月7日(水)～8日(木)大学のオープンキャンパスに合わせて「オープンライブラリ」を開催しました。猛暑にもかかわらず、昨年度の約2倍、560名ほどの方々にご来館いただきました。



## 秋の文献検索講習会を開催します!

	10/15 火 TUE	10/16 水 WED	10/17 木 THU	10/18 金 FRI	10/21 月 MON
10:30~ 12:00	国内	海外	国内	海外	海外
14:40~ 16:10	海外	国内	海外	国内	国内

**国内** ← CiNii Articlesを使って国内文献の  
入手方法を学びます

**海外** ← Web of Scienceを使って海外文献の  
入手方法を学びます

飛び入り  
大歓迎!!



実施期間・内容は左の日程表で確認してください。  
当日参加も大歓迎です。ふるってご参加ください!

時 間 : 午前の部(10:30~)、午後の部(14:40~)

場 所 : 附属図書館2F PCコーナー

予約優先 : 参考調査カウンター・電話・E-mailにて  
お申し込みください

連絡先 : 附属図書館利用者サービス担当(情報リテラシー)  
(電話) 059-231-9089  
(メール) literacy@ab.mie-u.ac.jp

### 展示図書コーナー新着図書

(2013年1月~6月発行分)

- 塚本明 人文学部教授/『豊秋雑筆』(清文堂史料叢書)  
角屋吉兵衛著、桑名町人風聞記録刊行会編、清文堂出版、2013.2 [215.6/Ka 14/1]
- 尾西康充 人文学部教授/『丹羽文雄文藝事典』(和泉事典シリーズ)  
秦昌弘、半田美永編著、和泉書院、2013.3 [910.28/N 89]
- 尾西康充 人文学部教授/『多喜二の文学、世界へ:2012小樽小林多喜二国際シンポジウム報告集』  
荻野富士夫編著、小樽商科大学出版会、2013.3 [910.28/Ko 12]
- 尾西康充 人文学部教授/『京都近代文学事典』(和泉事典シリーズ)  
日本近代文学会関西支部京都近代文学事典編集委員会編、和泉書院、2013.5 [910.26/Ky 6]
- 江成幸 人文学部准教授/『四日市市笹川地区における「多文化共生」に向けた課題:日本人・外国人住民アンケート調査報告書』  
福本拓 [ほか] 編著、三重大学人文学部多文化共存研究センター、2013.3 [334.41/Y 74]
- 森正人 人文学部准教授/『ハゲに悩む:劣等感の社会史』 (ちくま新書)森正人著、筑摩書房、2013.4 [361.6/Mo 45]
- 三根慎二 人文学部講師/『図書館情報学』 上田修一、倉田敬子編著、勁草書房、2013.2 [010/U 32]
- 富樫健二 教育学部教授/『健康づくりのための運動の科学』(はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ)  
柴田真志 [ほか] 著、鶴木秀夫編、化学同人、2013.1 [781.9/H 16/11]
- 富樫健二 教育学部教授/『スポーツ生理学』(はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ)  
富樫健二編; 秋間広 [ほか] 著、化学同人、2013.2 [781.9/H 16/3]
- 永田成文 教育学部教授/『市民性を育成する地理授業の開発:「社会的論争問題学習」を視点として』  
永田成文著、風間書房、2013.2 [375.39/N 23]
- 大谷正人 教育学部教授/『音楽における永遠をめざして』(音楽のパトグラフィー)  
大谷正人著、大学教育出版、2013.3 [762/O 84/2]
- 松岡守 教育学部教授/『知財教育の実践と理論:小・中・高・大での知財教育の展開』  
日本知財学会知財教育分科会編集委員会編、白桃書房、2013.6 [375.6/C 49]
- 金子聡 工学部教授/『Utilization of greenhouse gases』(ACS symposium series)  
Chang-jun Liu, editor, Richard G. Mallinson, editor, Michele Aresta, editor; sponsored by the ACS Division of Fuel Chemistry, American Chemical Society, 2013.6 [451.3/U 96]
- 三重大学出版会/『温泉とは何か:温泉資源の保護と活用』 森康則著、三重大学出版会、2013.3 [453.9/Mo 45]

【見かた】 ● 寄贈者 所属/『書名』著者名、出版社、出版年月[請求記号]

### ※※編集後記※※



● 表紙の写真 : 図書館1階のグループ学習エリアでディスカッションする学生さん達です。試験期前のグループ学習エリアは、ほぼ毎日満員御礼。それぞれ頑張っている姿が印象に残りました。

記録的な猛暑となった2013年の夏でしたが、図書館の改修で空調設備も一新されたことから、これまでに比べて快適に閲覧室をご利用いただけたのではないかと思います。ただ、前期試験終了後から後期授業開始までの期間は、省エネルギーの取り組みの一環として、利用状況を勘案したうえで、3階閲覧室の冷房と照明を切り、1階と2階をご利用いただきました。

本号が発行される頃には、既に涼しい秋を迎え、勉学にふさわしい季節となっていることでしょう。グループでの学習に適した1階(コモンズエリア)、図書館資料を活用した従来型の学習を行うための2階(クワイエットエリア)、静かな環境で自習できる3階(サイレントエリア)を使い分け、図書館を存分に活用してください。